

グローバル・アピール 2008

ハンセン病に対するスティグマ（社会的烙印）と差別をなくすために

「病を得た多くの者にとって、病気よりも辛いのは
その病気にまつわる偏見である」*

ハンセン病は世界最古の病気のひとつである。

それは、長い間不治の病であった。

数え切れないほど多くの人々が病気がもたらす障害に苦しんだ。

今日、ハンセン病は多剤併用療法によって簡単に治すことができる。

1980年代以降、世界中で1600万人の人々が治癒した。

早期に発見され、適切な治療を受ければ、なんの痕跡も残らない。

容易にはなくなるらないのは、長い時代にわたって存在してきたスティグマ（社会的烙印）である。

社会に根深くある無知と恐れのために、ハンセン病患者は治癒した後でさえも差別され続ける。

差別は、ハンセン病患者や回復者、及びその家族に、計り知れない苦難をもたらす。

教育、雇用、結婚の機会は制限され、地域社会の一員として生活することも認められない。

人の人生を病気が決定づけるなどということは、決して許されない。

私たちは、ハンセン病についての事実を社会が正しく理解するよう求める。

私たちは、スティグマと差別をなくすために皆が行動を起こすことを求める。

私たちは、ハンセン病患者、回復者とともに、ここに宣言する。

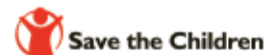
すべての人間が尊厳をもって生きる権利を有することを。

2008年1月28日

アムネスティ・インターナショナル (AI) 事務局長
アイリーン・カーン



セーブ・ザ・チルドレン世界連盟 会長
バリー・クラーク



障害者インターナショナル (DPI) 会長
フリオ・ウィルフレッド・ダスマン・ハラ



レオナルド・チェシャー・ディスアビリティ (LCD) 事務局長
ブライアン・ダットン



ヘルプエイジ・インターナショナル CEO
リチャード・ブルーウェット



世界女性サミット財団 (WWSF) 執行理事
エリー・プラダーバンド



国際法律家委員会 (ICJ) 事務局長
ニコラス・ハーウェン



世界教会協議会 (WCC) 事務総長
サミュエル・コビア



国際運動 ATD 第4世界 事務局長
ユージェン・ブランド



日本財団 会長
笹川陽平



* フランシスコ A.V. ヌネス、MORHAN (ブラジルのハンセン病回復者の社会復帰運動組織) 創設メンバー

グローバル・アピール 2008 は、WHO ハンセン病制圧特別大使にして日本国ハンセン病人権啓発大使、そして日本財団の会長である笹川陽平の主導によるものである。